

地震防災・減災 シンポジウム in 大宮

～人がつくる埼玉の防災をあなたへ そしてあなたから～

2018年度
地域防災力向上
取組み
in
埼玉

日時 2019年1月12日(土) 13:30～16:30

会場 TKPガーデンシティPREMIUM大宮大ホール

対象 県内の一般消費者等 **参加者数** 108名

主催 日本損害保険協会、埼玉県損害保険代理業協会、埼玉新聞社

開催趣旨 地震に対する防災や減災の意識を高め、命を守るためにとるべき行動を住民に伝え、浸透させること。

講演

地震災害に備え、正しく恐れて正しく備える

講師 室崎 益輝氏(兵庫県立大学大学院 教授)

- 概要**
- ・「熊本地震では地震で亡くなった人の4倍以上が関連死」「家が倒壊したのは『古い』『木造』などの理由だけでなく、住宅の手入れやメンテナンス、耐震補強をきちんと行っていなかったから」といった見過ごしがちな事実を、被害や復興、失敗から学ぶことで、正しい備えが見えてくる。
 - ・自然災害が凶暴化する一方で、地域の高齢化や設備の老朽化など社会は脆弱化している。
 - ・防災や減災の手段には限りがある。だからこそ、できることを組み合わせることで被害を少なくしていくことが重要。
 - ・できることは自分でやり(自助)、コミュニティで協力し合い(共助)、国や地方自治体も支援する(公助)。そのバランスが重要。また、ハード(耐震補強など)とソフト(コミュニティづくりや情報設備の整備、保険加入など)とヒューマン(教育など)の足し算が大切。



講演の様子(室崎氏)

パネルディスカッション

暮らしを守る私たちの身近な備えとは

コーディネーター 山崎 登氏(国土舘大学 教授・元NHK解説副委員長)

パネリスト 室崎 益輝氏(兵庫県立大学大学院 教授)

佐藤 主光氏(一橋大学大学院 教授)

秋沢 淳子氏(TBSテレビ 担当部長・アナウンサー)

高埜 隆氏(さいたま市総務局危機管理部防災 課長)

- 概要**
- ・防災・減災対策は、「ハード、ソフト、ヒューマンの足し算」や「自助、共助、公助の足し算」など、さまざまな足し算が重要。なかでも共助の部分は、今後さらに重要になってくる。コミュニティを守るためには老朽家屋を減らし、人の流出を防ぐことも大切。生活の再建や復興にあたっては、地震保険による備えも欠かせない。



パネルディスカッションの様子